

(有) 向台ポーター

堆肥成分分析結果(現物中)

分析日: 1997/8/

		1t当たりの含有量
水分	22.7%	
窒素全量	3.7%	37 kg
りん酸全量	4.7%	47 kg
加里全量	2.6%	26 kg
石灰全量	15.1%	151 kg
苦土全量	0.9%	9 kg
ナトリウム	0.5%	5 kg
NaCl	1.3%	(ナトリウム換算)
E.C.(現物:水=1:10)	6.7	nS/cm(25°C)
pH(現物:水=1:10)	8.9	
強熱減量	40.1%	401 kg
C/N比	5	

堆肥クオリティーチャートについて

堆肥クオリティーチャートは千葉県土づくり大会堆肥コンクールにおける発芽試験と成分分析等との関係をもとに成分値から土づくりの堆肥の有機肥料の堆肥かを表しています。

発芽試験は土づくりの堆肥を振るい分ける観点から堆肥と火山灰土壌を1:1に混合シコマツナを用いて行われています。したがって肥料成分の多い堆肥や土壌中で急激に分解する堆肥の発芽率は悪くなります。

発芽率と成分分析の関係をみると窒素含量が概ね1%を超えると発芽率が低くなる傾向がみられました。

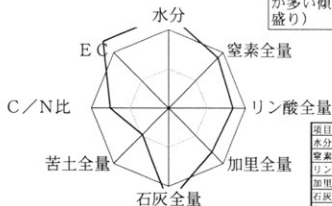
またE.C.(現物:水=1:10)で概ね2nS/cm(25°C)、加里で概ね1%を超えると同様に発芽率が低くなる傾向がみられました。これらの値を超える堆肥は施用量によっては肥料成分を考慮して使用したほうがよい堆肥と考えられ、逆にこれ以下のものは肥料の効果より土づくりの効果期待できるものと考えられます。

一方コンクールの審査員による官能検査結果と発芽率の関係をみると、官能評価の低いものすなわち不快臭の強いものは発芽率が悪い傾向がみられました。したがって成分値からみて土づくりの堆肥と考えられても不快臭の強い堆肥をそのまま使うと問題をおこす可能性があります。

なお、りん酸や石灰、苦土含量については発芽率との間に一定の傾向はみられません。一応1%以上のものを肥料の価値があると考えました。

堆肥のクオリティーチャート

◎チャートは外側に広がるほど肥料成分が多い傾向を表す。(水分とC/N比は逆目盛り)



項目	外枠	内枠	中心
水分(%)	25	50	75
窒素全量(%)	5	1	0.1
りん酸全量(%)	10	1	0.1
加里全量(%)	5	1	0.1
石灰全量(%)	10	1	0.1
苦土全量(%)	5	1	0.1
C/N比	3	10	25
E.C.(nS/cm(25°C))	5	2	0.1

成分値から見た堆肥利用の目安(該当欄に○が入る)

	窒素含量が少ない、土づくりの堆肥(但し、不快臭の強い場合は脚注1参照)
	E.C.が高いので施用量に注意する。
○	窒素含量が多い、有機質肥料の堆肥 (施用量により窒素の効果期待できる。施肥設計等で堆肥中の窒素分を考慮して使用する。)
○	りん酸含量が多いので、施肥設計等で堆肥中のりん酸分を考慮して使用する。
○	加里含量が多いので、施肥設計等で堆肥中の加里分を考慮して使用する。
○	石灰含量が多いので、施肥設計等で堆肥中の石灰分を考慮して使用する。
	苦土含量が多いので、施肥設計等で堆肥中の苦土分を考慮して使用する。
	C/N比が高いので、更に堆積するか窒素飢餓等に注意して使用する。

注1) 不快臭の強い堆肥は、更に堆積するか施用後2~3週間置いて作付けする。

注): C/N比は強熱減量の1/2を炭素として計算した概数